



令和4年10月18日

小牧市議会議長 様

会派名 無会派

代表者氏名 大上利幸

研究・研修の結果を報告します。

記

- 1 参加議員
大上利幸
- 2 日程
令和4年10月13日(木)・14(金)
- 3 研究・研修名
第84回全国都市問題会議
個性を活かして、「選ばれる」まちづくり
～何度も訪れたい場所になるために～
- 4 主催者
全国市長会
後藤・安田記念東京都市研究所
日本都市センター
長崎市
- 5 会場
出島メッセ長崎

6 受講の目的

「また訪れたくなる、何度でも訪れたくなる」魅力ある地域づくりのための基本的な考え方や取組を小牧市へ活用するため

7 主な内容

第1日 10月13日（木）

基調講演として、民間主導の地域創生の重要性について、株式会社ジャパネットホールディングス代表取締役高田社長兼 CEO からジャパネットと地域創生・長崎スタジアムシティプロジェクト・行政に期待すること等の説明があった。

主報告として、田上長崎市長から『長崎の魅力あるまちづくり』の報告があった。一般報告としては、島根県立大学地域政策学部田中輝美准教授から『何度でも訪れたくなる場所 地域との新しい関わり方・関連人口』、佐藤山形市長から『ビジョンを活かしたまちづくり「選ばれる山形市」を目指して』、一般社団法人地域力創造デザインセンター高尾代表理事から『「交流の産業化」を支える景観まちづくり～長崎市景観専門監の取り組み～』があった。

第2日目 10月14日（金）

テーマ『個性を活かして「選ばれる」まちづくり～何度でも訪れたい場所になるため～』のパネルディスカッションがあり、コーディネーターとして東京都立大学法学部大杉教授、パネリストとしてゆとり研究所野口所長、山梨大学生命環境学部田中教授、NPO 法人長崎コンプラドール桐野理事長、都竹飛騨市長、藤原伊丹市長からテーマに沿った取組の説明があった。

8 所感・提言・課題

長崎市関連の取組で参考になったのが、「景観専門監」の導入である。

景観専門監のミッションは「①長崎市が行う公共事業のデザインの指導と管理」「②長崎市職員の育成」の2点であり、各事業の現場におけるOJTを進め、階級的には次長級に位置付けられており、いずれの部局にも属さず、あらゆる部局の事業を監修する庁内監修者である。担当者の検討案に対して景観専門監が「問い」を投げかけ、担当職員がより良い解を見つけ出すプロセスを生み出す「デザインディレクション」を行っ

ている。地域の歴史、場所の履歴、周囲に見えるもの、地区住民の願い、利用者ニーズ、市全体のビジョン、関係者の都合、そうした文脈を総合的に読み解きながら、あるべき整備の姿を検討する事が出来るようになる為にも、景観専門監の「問う」存在が必要であると感じています。

現代において地域が迎えている課題は、これまでの縦割りの組織体制による分野ごとの施策実施では太刀打ちできないと思います。ビジョンを持って仕事に取り組む人材（自治体職員）が多く存在している地域がより良い地域になります。まちづくりを行うのは人であり、特に自治体職員は重要な存在であるため、職員育成・人のつながりを「問う」という観点から良い方向に導く「景観専門監」は非常に意味の深い仕組みだと感じています。

このことから小牧市でも「景観専門監」と同様な専門家を検討する必要があると感じています。